

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703451		
法人名	株式会社 エルゼ		
事業所名	愛好の里 クループホーム 青春・明苑		
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1-26-20		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果確定日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成30年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が寄り添い、第2の家で家庭的な雰囲気最期まで穏やかに過ごしてもらえるように支援しています。当苑は開設14年目に入り、最期の時を迎える看取りケアを7名させて頂き、住み慣れた家で・・・2名の方がここで通夜、葬儀を行いました。毎日入居者の方を手厚く介護し家族の一員としてお一人おひとりに愛情をもって、誠心誠意援助させて頂いています。ご本人様・ご家族様から喜んで頂けるのが愛好の里グループホームの希望です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者を自分の家族と思って接したいと、「愛情をもって明るく楽しくともに笑える毎日をお願いします」との理念を各居室にも掲げ、全職員で理念の実践に励んでいる。職員の気づきや検討会で入居者の心身の状態を話し合い、職員の声かけて、入居時無表情だった入居者も明るい笑顔になったり、排泄のサインやパターンを理解した手引き歩行で、失禁が少なくなり表情が明るくなっている。ホームでの看取りも自然なこととして受け入れ、「最期はここで、葬儀もここから」との希望通りに、入居者と一緒にお見送りした方もある。夏まつり参加や子ども神輿の巡行が恒例となっているが、運営推進会議に地域代表として経験豊かな新メンバーの参加があり、相談や協力をお願いするなど、地域交流を促進しながら地域拠点として、地域包括ケアの実践が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **愛好の里 グループホーム 青春・明苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛情をもって明るく楽しくともに笑える毎日を過ごします」という理念を掲げ、家庭的な雰囲気な中でともに笑顔で過ごすことが出来るよう努めている。	理念を入居者の各居室に掲げている。管理者は、全職員に入居者のことを自分の家族と 思って接することで、細かな心遣いができる と意識付けし、個別の介護計画で実践に励んで いる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には招待状を届けて頂けるので、可能であれば参加させて頂くようにしている。	夏祭りの盆踊りへの参加やこども神輿の巡行が恒例となっている。職員のサークル仲間が演奏のボランティアに訪れたり、運営推進会議に地域代表として、元婦人部の方や以前ケアマネージャーだった方に参加をお願いしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時には、民生委員・地域住民の方へ出席して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂くと共に、近況の報告、支援内容についての説明を行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、包括支援センター、民生委員や地域住民の方に苑での出来事・取組みについての報告を行っている。また、参加者の方々より、意見を出して頂く事で、サービスの向上につながることが出来ている。	仕事を持たれている家族も多く出席が叶わないが、民生委員や行政、地域からの新しいメンバーの参加で、2ヶ月に1回開催され、議事録が整備されている。今回参加された経験豊かな新メンバーに相談やご意見をお願いしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に開催される会議の中で苑の実情を伝え、悩み事も含め、包括支援センター、民生委員の方等に相談、意見を伺いながらサービスに活かすと共に、時として協力をお願いしながら、より良いサービスができる様にしている。	運営推進会議で顔なじみになった行政職員に会議の内容や進め方、入居者へ対応などを相談している。後日、資料を持って来訪されるなど、良好な連携が継続している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の状況や1日の生活リズムを把握し、帰宅願望のある入居者には本人の気持ちになり、スキンシップをとりながら納得させる工夫をし、施錠をしない介護を実践できるように努めている。身体拘束に関しても実施したことはない。	日中の施錠はしていないが、転倒の恐れのある入居者に赤外線センサーを使用している。運営規程に身体拘束適正化委員会を明記し、防止の取り組みを開始している。職員は内部研修で学びながら、言葉による拘束や制止の言葉も拘束にあたることを理解している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育体制を充実させ身体的・心理的虐待の防止を徹底している。苑をオープンにし、家族来苑時にも通常の姿を見て頂けるようにしている。情報共有の場をもうけ、虐待のない介護を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。現在、制度を利用している方はおられないが、必要と思われる場合には利用者家族等に情報提供をするようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを整備し、入居時に制度等の説明をしている。また、必要時関係機関へつなげるように事業や制度の違いを学ぶ研修会を計画している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な説明を行うとともに疑問点や不安点がないかについても確認を行っている。理解・納得を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には意見や苦情が出やすいように玄関にご意見箱を設置し、入居者には言葉や態度からその気持ちを職員が察するように努力している。また何らか、把握した場合にはスタッフのミーティングに挙げ速やかな対応を行うようにしている。	1日おきに来訪される家族もあるが、来訪が少ない家族もあり、来訪時などに入居者の状況報告をしながらご意見を伺う機会としている。歯科受診回数や補聴器を使用していない診察に関する意見など、些細な事でもその都度対応し、反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ職員の意見や要望を聞き入れるようにしている。	月1回のミーティングは2日間に分けて勤務時間内に実施している。全職員の出席があり、研修やケアカンファレンスで情報の共有や周知を図っている。夜間失禁が多い入居者を多尿用おむつに変更する場合も試用期間を設け、担当者から家族への提案など意見が集約されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務・給与・福利厚生)は(株)エルゼに管理されているが管理者としては職員の意見など働きやすいように改善を図る様になっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	苑では性別・経験・年齢等は制限せず採用している。また未経験者であっても不安無く働けるよう研修から行っている。個人の希望休日の調整や急な勤務交代についても柔軟に対応している。	20歳代から70歳代の職員が、個々事情に応じた時間帯に勤務し、資格のない職員もいる。夜勤専門職員の雇用もあり、無理なく穏やかな入居者の生活支援ができるよう配置されている。ホームの清潔な様子を見て働きたいと就職した職員は管理者から学びたいとの思いで勤務して10年になり、入居者との毎日から学びが多いと感じている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員参加のミーティング時に人権についてのテーマを掲げ、教育を行っている。	内部研修で人権研修を組み入れている。常に家族に接するように入居者への対応を心がけ、細かな心遣いを管理者は職員に話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングは分割にて行っているが、全員の意見が把握、反映されるような形をとっている。社内研修を行い、知識や技術の向上を随時図っている。未経験者には管理者自ら現場に出て、指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアプランセンターと連携し交流を深めつつある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、面談を行いご本人、ご家族の不安や要望等を伺っている。ご本人の不安については少しでも和らげる事が出来る様コミュニケーションを取りながら安心の確保に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時の面談にてしっかりと不安等を尋ね、例えばどのような方向で対応していくか、少しでも良い方向で生活して頂けるようご本人様に合わせた対応を行っていく旨お伝えし、随時報告を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には、必要としている支援を見極め、御本人や家族の意向を確認した上で紹介する等の対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として礼節を持ち、個人史や生活歴を理解した上で対応するように心がけている。個々が今出来る事を大切に、共に暮らす家族の一員としてお互いが支え合う関係を築ける支援に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況等を随時ご家族へ報告し、ご家族の思いを聞きながら支援の方向性の決定に活かしている。その事によりご家族も共に支援にかかわっているという形が作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部の方の面会や外出、外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるようにしている。	1日おきに訪れる家族や月1回入居者と外出される家族もあり、家族との関係継続を支援している。入居者が顔が分からなくなり、足が遠のいた友人もあるが、訪問美容師と馴染みになられた入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと一緒にコミュニケーションをとったり、レクレーションや学習を取り入れて孤立することないように入居者一人一人に合った支援、できる事をお手伝いして頂き見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りによる退去、契約終了が多い為、ご本人様の経過をフォローすることは出来ないが、ご家族よりの相談があった場合には対応させて頂いている。実際に以前の入居者様の息子さんが入居されたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談・普段の会話の中から、希望等を聞き、その思いを尊重し、少しでもそれに沿う事ができるように努めている。また、日常生活の変化などの中からご本人の思いを汲み取り援助に繋げられるように心がけている。	アセスメントシートを家族に記入してもらったり、職員全員で把握した情報をアセスメントシートに集約している。その時々々の思いや意向を職員たちは共有し、入居者たちの生活を支援して、表情豊かな笑顔を引き出している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の思いを尊重し、少しでも希望に沿うよう支援をさせていただき、本人の意向を第一に考え、その人らしい暮らしが出来るように努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人に合った生活スタイル、1日の過ごし方を検討、常に観察してスタッフ同士で個々の情報を共有、支援に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度検討の機会を設け、今の入居者の状況、問題点、今後の対応をスタッフで話し合い計画を作成している。	毎日の気づき、月1回の検討会などで職員全員で入居者の心身状況を話し合い、作成した介護計画を確認しながら、日々支援に努めている。入居時は車椅子だった方は、手引きや歩行器での移動ができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等はその都度スタッフ間で共有出来るよう申し送りを行い、必要と思われる点についてはプランの見直し時に活かすようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、受診、送迎や個人希望の買い物等必要な支援は行っている。孫の結婚式、奥様の葬儀等行動に制限される事の無いよう、一人一人の人生において後悔の無い行動を出来るよう対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事には招待状を頂き、出来るだけ参加するように努めている。また、ボランティアの方に音楽を演奏して頂いたり、馴染みの唄のCDを作ったものを分けて頂いたり、歌の好きな入居者が多いので、楽しめる機会を作って頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の選択は行って頂くが、現在は全員が苑のかかりつけ医より月2回の往診を受けている。その他状態に変化が見られた際には随時相談行い指示を受けている。別の専門科受診が必要な際はスタッフ同行にて受診を行っている。	協力医療機関の往診や訪問歯科、必要時訪問看護の協力体制で適切な医療を受けられるよう支援している。家族へ随時報告を行い、入居者の変化も専門医受診につなげている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族へ週に一度、看護師が勤務、バイタル等体調確認を行っている。1週間の状態、気づきなどを伝え、相談を行う。体調不良の入居者は、随時看護師、かかりつけ医へ連絡を密に行い、適切な受診や看護、服薬を出来るよう対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中には出来るだけ様子を見に伺い、医師・看護師よりの情報を得るようにしている。具体的な退院後の生活について、相談・検討を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に苑としての考え方、今までの看取りの事例についてご家族に説明を行っている。また、体調が悪化時には、看護師も交えて再度今後の方針についてご家族の要望を改めて伺ったうえで、支援を行っている。家族の希望により看取りから葬儀までを苑にて行い、送り出した方もおられる。	この2年間に2名を看取り、毎回、管理者や計画作成担当者が泊まりこみ、家族や勤務時間外の職員が来訪するなど、職員は看取りを自然なこととして受け止めている。最期をここで、葬儀もここからとの希望通りに、全員でお見送りした入居者もある。入居者も自然な様子で受け止め、日常に戻られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の特徴や心身の状況を把握し常に注意を払い急変時の対応方法について学んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者を交えた避難訓練の他、全職員で定期的に避難訓練を実施し災害時に対応できるように備えている	先日の昼間想定避難訓練では、ソファからの立ち上がりに時間がかかったなどの反省があった。来月は夜間想定避難訓練を行う予定である。近所の出入りの食材業者からの申し出で、今後の備蓄についても願っている。	昨今の気象変動から災害を想定し、近所の方を巻き込んだ訓練など地域の協力体制作りを期待しています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動には十分注意するようにお互いが見守りながら皆で徹底している。	職員を身近に感じてもらえるために、家族と話し合っ「さん」「ちゃん」などを使い分けている。無表情だった頃は声かけにも反応がないことがあったが、今は職員たちの声かけで満面の笑顔になる入居者もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を尊重し、自分で決めて頂けるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて「急がない、慌てない」を心がけ支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には本人の好みを考慮しつつ、季節、天候に合わせて支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は積極的に参加してもらいテーブル拭きやセッティング等出来る範囲内で一緒にお手伝いをして頂いている。	職員も同じ食事を同じテーブルにつき、みんなで揃って「いただきます」と挨拶している。入居者の希望の献立を管理者が栄養に偏りが無いか確認しているが、献立の感想を言ったりしながら、それぞれのペースでゆったりと完食している。食後の食器集めやテーブル拭きを入居者と共に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を取り入れながらバランスを考え職員が献立を立てている。1人ひとりの状態を見ながら、食材と食事形態の工夫をしている。水分摂取量は1日ぶんの記録を行い、摂取量が少ない方には声掛けや時間をおいた摂取を試みている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い本人の力に応じて確認、援助・アドバイスを職員が行っている。また、舌の汚れにも気を付けており、舌ブラシにてケアを行っている。義歯の方は就寝前、洗浄剤にて漬け置き洗浄をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや便薬の服用状況を把握、状況と状態に応じたこまめなトイレへの声掛け、おむつ交換を行い衛生維持に努めている。	入居者の「腹がどうかある」や落ち着きなく立ち上がるなどのサインや排泄パターンを理解して、パットの選択や声かけ、誘導など排泄支援を行っている。歩行器ではなく手引き歩行ができるようになり、パット交換回数が減った入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に根菜類や、煮類、海藻類をバランスよく多く取り入れられ飲食物は工夫されている。牛乳は毎日飲んで頂き、毎朝ラジオ体操を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大きなガラス張りでもとも眺めが良く、温泉気分を楽しみながら入浴されている。希望があれば1人だけ、気の合う方同士でも入浴可能。くつろげる時間作りを心掛けている。	眼前の池を眺めながらゆったりした週3回の入浴は、毎回心身がリラックスできる機会となっている。入院前はなんでも拒否され、入院1ヶ月間入浴せずに退院された入居者は、声かけや介助職員を交代するなどの工夫で、今では浴室前で順番を待つまでになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を活かした部屋作りを心がけている。安心して休息出来るようにソファで休息して頂いたり安心して気持ちよく就寝して頂く為1人ひとり工夫して転落防止に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんが服用される薬には薬局より日付を記入してくる。服薬忘れがないよう確認もしやすい状態になっている。また体調が急変した場合にはかかりつけ医の指示を受け服薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常時何かしらの音楽が流れ、歌を歌ったり1人ひとりに応じた力を活かしぬり絵、パズル、習字等を楽しまれている。晴れた日にはドライブに出かけ季節の草花を摘んできたり気分転換等の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は少ないが気候の良い時などは近くの公園に散歩に出かけたり車でドライブなど、外出の機会を持つようになっている。希望があれば入居者の買い物と一緒に出掛ける。	近くの公園も歩いていける入居者はなく、ドライブをかねて出かけたり、気候の良い時はデッキで水辺を眺め、お茶の時間を楽しむなどしている。家族と月に1度の外出をされる入居者もあるが、外出の機会が少なくなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は所持して頂く事もあるが、現在は居られない。自己管理不可能な方、家族に希望がある方は管理者が管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙について、入居者の要望があれば対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の温度管理は細かく行いリビング、浴室共にとても広々としていて開放感があり大きな窓からは暖かい光が十分に入り季節の移り変わる様子を満喫しながら快適に生活できるようにしている。	リビングの広いガラス窓から柔らかい光が差し込み、ウッドデッキの先には秋の景色が広がっている。空調や温度管理、掃除の行き届いたリビングは、整頓された福祉用具やソファ、長テーブル、椅子が配置され、オープンキッチンから入居者の様子が見渡せるなど、寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中居室にて過ごされる方は部屋の温度管理を十分に行い、また苑内の和室、ソファやダイニングテーブルを好きな時自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活習慣に合わせてベッドや畳などの部屋作りを行い、好きな花を飾ったり、仏壇やご家族の写真などを置き居心地の良い部屋になっている	引き戸の脇の壁に木製の名札がかかり、各居室は大きな掃き出しの窓のため、陽光が差し込み明るい。全居室にベットや加湿器を設置し、夫の遺影に毎日お参りされる様子が伺えたり、孫やひ孫に囲まれた写真が飾られ、居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光、バリアフリー、手すり設置の他行動範囲内の障害物を排除し、一人でも安全に移動が出来る様、またお一人の利用者さんにはお手洗いの入り口に「お便所」と書き添えて利用して頂きやすいような工夫と環境づくりに努めている。		